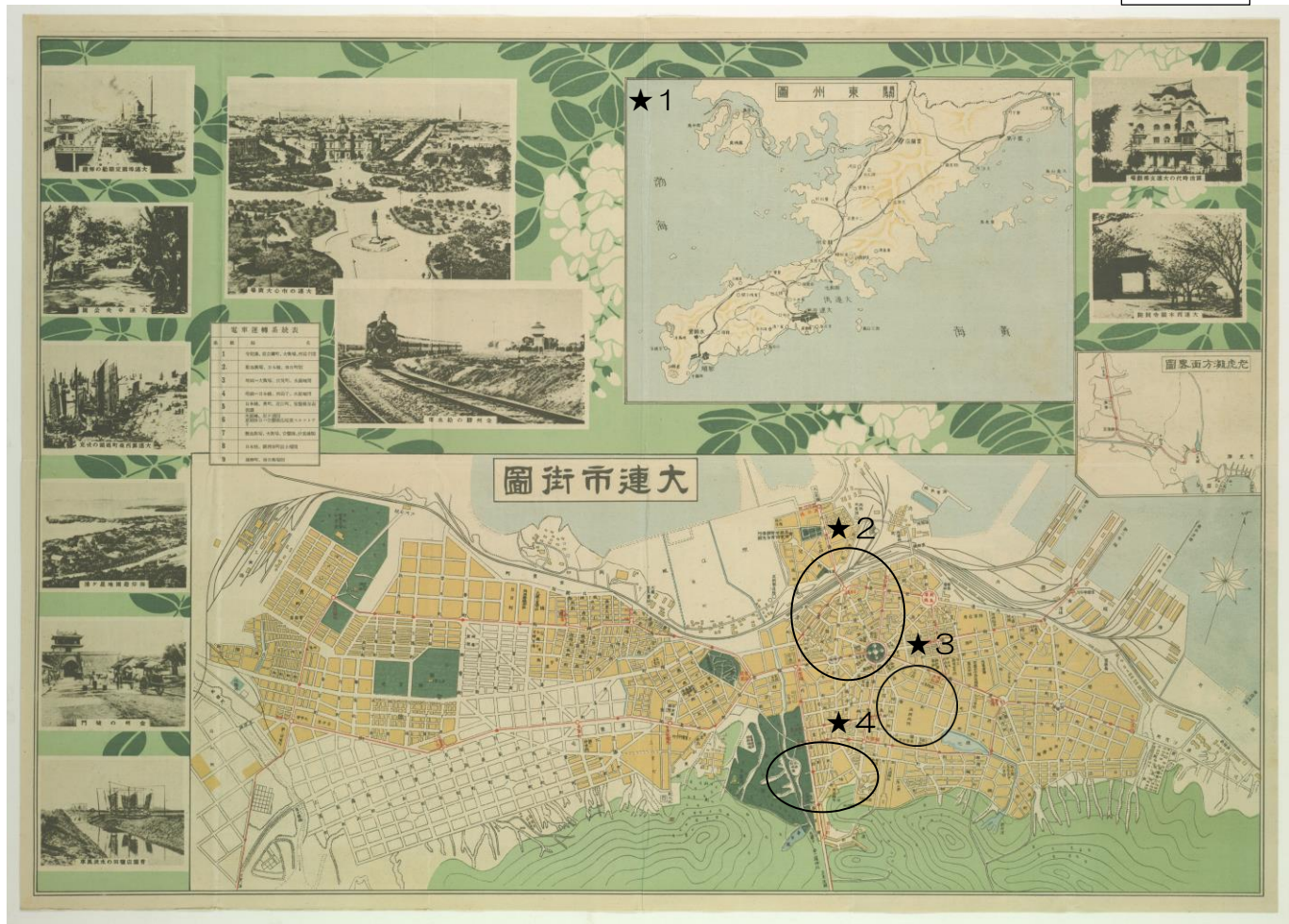


授業で使える当館所蔵地図

No. 45 『大連地方案内』
 発行年：1927（昭和2）年
 サイズ：38×53cm
 作 者：南満州鉄道株式会社（編・発行）

★原図



★1



★2



★3



★4



【解説】

戦前、日本の領土は、領土、租借地、委任統治区域、一部統治区域、一時的統治区域、租界という複雑な階層から構成されており、それらは大まかに「内地」（領土）と「外地」（領土以外）に二分されていた。このうち、日露戦争後の1905（明治38）年にポーツマス条約によって、日本の租借地となったのが、関東州（遼東半島の先端部）である。関東州には、軍港として旅順、商業港として大連の両都市があり、日本の大陸進出の拠点として発展を遂げた。本資料は、昭和初期の大連の市街図が、名所の写真とともに紹介されており、日本の租借地、大陸進出の拠点の実態を知る上で、興味深い資料といえる。

※租借地 …他国の領土の一部を借用することを租借といい、その領土を租借地という。領土割譲と同様の特権を行使でき、独占的・排他的な管理特権を持つことができる。

【地図を見るポイント】

★原図 大連市街の概観

大連市は、南満州鉄道大連駅の南東部を中心に市街地が広がっていることが分かる。市内中央の「大広場」から街路が放射線状に伸びており、この大広場付近に行政機関や会社が集まっている（関東通信局、大連警察署、横浜正金銀行大連支店、大連ヤマトホテルなど）。現在、この広場は、「中山広場」とよばれており、日本統治時代の建物は、中国政府によって文化財として保存されている。また、市の周辺にも「敷島広場」や「朝日広場」があり、こうした広場からさらに街路が伸びることで市街地が広がっている。

市街地の中には、市場、学校・病院（★3）、劇場、銀行・警察署（★2）、寺社（★4）、軍関係の建物などが確認できる。また、同時期に作成された大連関係の地図（「大連市街全図」）からは、市街西部に競馬場が、大連市南東部の「老虎灘」に海水浴場が、南部の「星ヶ浦」にゴルフ場、海水浴場があったことも分かる。

大連市を特徴づけているのは、市の北部にある港湾施設で、3つの埠頭が確認できる。また、この港湾施設を始点として、鉄道が満州方面へと伸びており、日本本土と満州をつなぐ中継地としての大連の歴史的役割が理解できる。

★1 「関東州図」

関東州は、日露戦争後、日本の大陸進出の拠点となった地域で、日本は領土に準ずる統治権を有していた。地図中から、関東庁が置かれた旅順、南満州鉄道株式会社が置かれた大連など、各都市の位置関係が分かる。また、関東州の各都市が鉄道で結ばれていたことも理解できる。本地図発行の3年後に行われた1930（昭和5）年の国勢調査によれば、この地域に10万人を超える日本人が居住していたという。

※関東庁 …旅順におかれた関東州の統治機関。1919（大正8）年、それまで関東州の統治を担っていた関東都督府を廃して、関東州の行政を担当。軍事面は、関東軍（関東州と南満州鉄道の警備が主な任務）に委任。1934（昭和9）年、大連に関東州庁が設けられ、廃止。

★2 大連市内の地名

地図の中の地名に注目すると、日本由来のものが多くて興味深い。代表的なのは、大連駅近くの高架橋で、1907（明治40）年、日本が橋を造り直して、名前を「日本橋」と改名したという。その他、伊勢町、信濃町、美濃町、伏見町など日本の地名が由来となっている地名が随所に確認できる。また、東郷町、乃木町、寺内町、山縣通、大山通などの地名も確認できるが、明治・大正期の軍人の名前に由来するとされる。一方、大連駅北部には、露西亞町という地名が確認できる。これは日本の租借地になる以前、ロシアの官庁街があったことに由来するという。地名から、大連の統治権の移り変わりが垣間見えて興味深い。

★3・4 南満州鉄道株式会社

南満州鉄道株式会社（満鉄）は、1906（明治39）年大連で設立され、翌年開業した。資本金の半額は政府出資で、事実上の国家機関であった。ロシアから譲り受けた長春・旅順間の旧東清鉄道に加えて、鉄道沿線の炭鉱なども運営し、日本の満州への経済進出の足がかりとなった。地図中には、「満鉄本社」とあり、大連におけるその所在地が確認できる。また、地図からは、「満鉄病院」（★3）や「満鉄野球場」（★4）の存在も確認できる。本資料「大連地方案内」の発行も満鉄が行っていることから、満鉄が大連市に大きな影響力を持った存在であったことが再確認できる。

【活用の例】

○日清戦争後の遼東半島をめぐる諸問題をより深く理解できる。（『日本史B』「日清戦争と三国干渉」）
→遼東半島の位置、旅順・大連という都市の位置、都市としての性格（軍港、商業港）を説明できる。
→なぜ、ロシアが三国干渉で遼東半島の返還を求めたのかを大連の地理的特徴（天然の良港）から考えさせることができる。

○租借地における人びとの暮らしを考えることができる。（『日本史B』「日露戦争後の国際関係」）
→生徒に地図上から大連にあった様々な施設を読み取らせる。
→日本統治時代の大連を事例に、植民地、租借地における当時の日本人の都市生活を考えさせる。

○日露戦争後の日本の大陸進出拠点の実態が理解できる。（『日本史B』「日露戦争後の国際関係」）
→大連の地理的特徴、都市の構造、南満州鉄道株式会社について詳しく知ることで、大陸進出の拠点としての大連の役割を説明できる。

【当館所蔵関連地図】

- ・「大連市街全図」
- ・外邦図「大連」, 「旅順」

【参考文献】

- ・有馬学『日本の歴史23 帝国の昭和』講談社、2002年
- ・清岡卓行『アカシヤの大連』講談社、1970年